

■宝塚景観まちあるき冊子（ガイドマップ）について

宝塚の地形は大阪湾から大きく奥に入り込み、北側に中山連山（長尾山山系）、西側に六甲山系があり直角に山並みの屏風で囲まれています。その真中を武庫川が流れ下り、西側に河岸段丘が発達し、東側には伊丹台地が形成されています。この地形構造が宝塚特有の景観を作っています。

山々の山麓、武庫平野に住宅地が形成され私たちが住んでいます。山裾や中腹には社寺や文教施設なども立地し、山と川と平地が一体となった景観は他市には見られない宝塚特有の特色です。

世界的ブランドとして宝塚歌劇がありますが必ずしも市民生活に深くかかわりがあるものでもありません。

唯一他市に誇れるものは「地形・地勢条件」と「景観」です。地形・地勢は景観や風景をつくり、歴史・文化を生み出し、環境を育てます。

直角に囲まれた山々と真中を流れる武庫川とその支流が、3次元（3D）立体景観と文化的景観を創り出し、宝塚の重要な個性と魅力資源であるといえます。

これまでこの主要な魅力資源を上手に活用してきたとは言えません。私たちはこの地形の上に暮らし生活していますが、この特徴を理解し上手に活用することによってより豊かな生活を享受できると考えています。これらの地形や山々が急峻であれば壁のように感じますが、宝塚の山々はほど良い角度で見ることができ、都市景観にゆとりや豊かさを提供しています。

また、市街地に残された樹林や緑地はかつて手塚治虫が昆虫採集をした森のように、市民生活に潤いと安らぎを与えてくれます。

これら宝塚南部市街地の景観構造を以下の視点から調査分析し、景観まちあるきコースを提案しました。

①主な視点場（景観眺望ポイント）から「日本の名所への角度調査結果（景観の構造・樋口忠彦）」を応用し宝塚の景観分析を行いました。

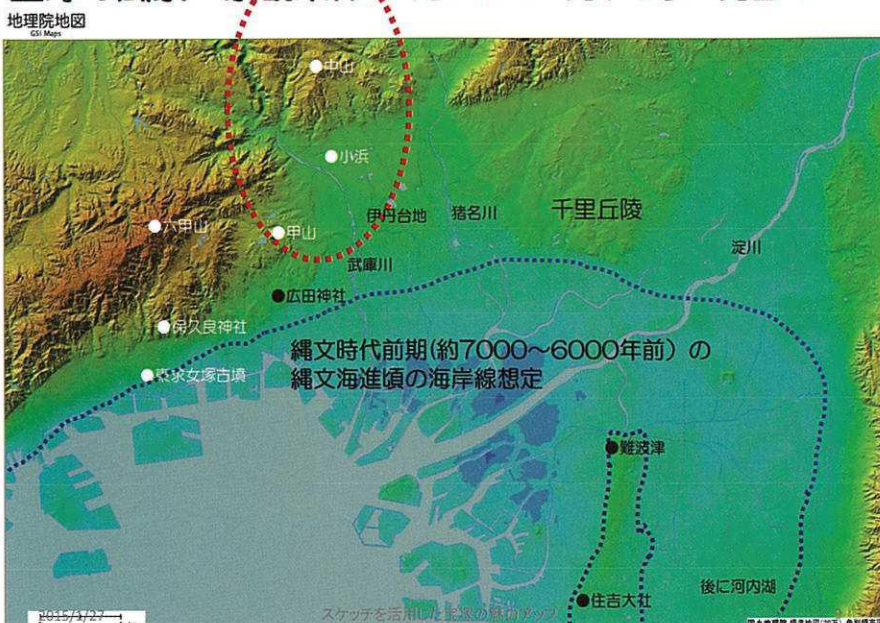
- 視点場：主な景観眺望ポイント
- 仰角：見上げる角度5° ~ 12°
- 俯角：見下ろす角度5° 以下
- 見合う景観

②地区計画や景観計画特定地区など景観づくりに配慮されている地区の概要把握。

③お勧めコースとして提案しました。

●宝塚の地形的特徴

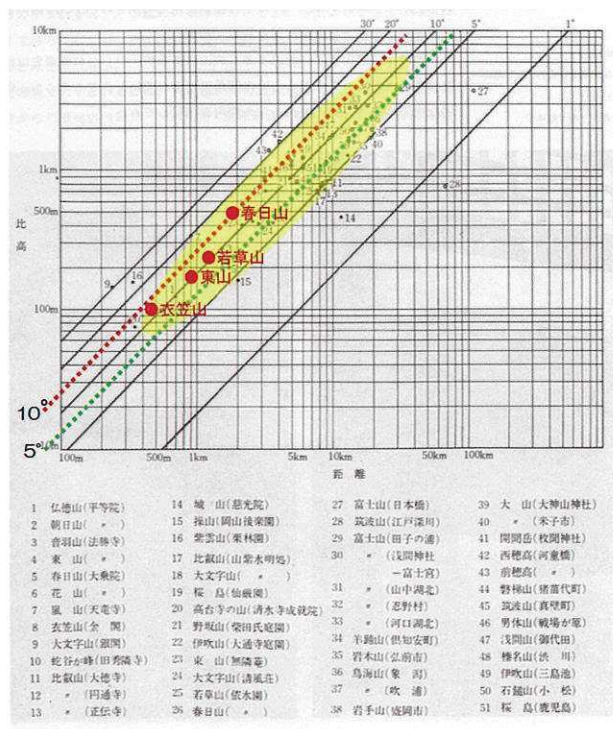
宝塚の風景・景観条件 見上げる・見下ろす・見合う



●景観の構造分析結果より

日本の名山と視点場からの仰角（景観の構造・樋口忠彦より）

- ①庭園から望まれる名山のほとんどの仰角は12°から5°の範囲で平均8.8° ± 1.1°
- ②代表的な眺望点から望まれる名山の仰角は平均9.1° ± 1.5°
- ③日本人が親しんできた山は8.7° ± 1.0°
- 仰角5° 以下の山 スカイラインが視覚的に卓越した重要性をもつ。頭部の上下運動を伴うことなく、眼球運動のみで容易に山容全体をのぞむことができる山である。
- 仰角9° 近隣の山 スカイラインばかりでなく、山腹にも興味もたれる。視野としては山容全体を容易に見越すことができ、スカイラインも容易に望める山である。



*調査分析・冊子発行主体：宝塚景観まちあるき会 代表 清水光雄 問い合わせ先：副代表兼事務局長 田村博美
 TEL&FAX:0798-53-3906 E-mail: tam-hiro@gaia.eonet.ne.jp PDF 版掲載予定：宝塚むこスケッチ会 HP:mukosketchkai.jimdo.com
 本調査および分析は宝塚景観まちあるき会会員が2017年夏ごろから2018年1月にかけて実施し、田村がとりまとめと編著を担当しました
 地区計画および景観形成計画等の取りまとめ比較表は永松が担当しました。会員で協議し最終図書としてとりまとめました
 ベース図は宝塚市都市計画課から提供していただきました。
 *主な調査協力者：清水光雄、一宮洋、伊藤靖久、大蔵正幸、黒崎久美子、永松寛喜、廣田雅良、松本立志、山本敏晴、清水栄治、田村博美